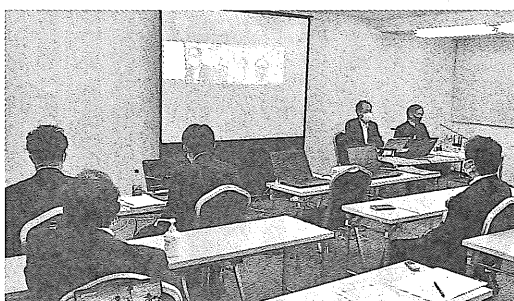


札幌建設協 BIM/CIMセミナー

建設業がより魅力的に

23年度原則適用で流れ変化



札幌建設業協会(岩田圭 剛会長)は19日、「進む建設DXとBIM/CIMのむけて」をオンラインで開催した。CPDS認定講習として、札幌開建などの協力のもと、札幌商工会議所などと共催。基調講演では、大阪大学大学院工学研究科の矢吹信喜教授が「BIM/CIMの原則適用と将来展望」と題し、2023年度の普及促進に向けBIM/CIMの効果を紹介し、

原則適用が知識・技能向上、業務効率化、生産性向上という一連の流れを生み、建設業が非常に魅力的な産業になり得ることを紹介した。

セミナーは、国土交通省が、一般土木工事において小規模構造物を除くすべての構造物へのBIM/CIM原則適用を23年度からと

業の実現のためにも充実したセミナーにしてほしい」と呼びかけた。

基調講演では、矢吹教授が「BIM/CIMの原則適用と将来展望」について、「スリットは、各種業務の効率化や2次元では避けられないミスの削減だけにとどまらぬ」と力説。23年度の原則適用が知

するロードマップを示していることを受け、今後の活用に向けた導入の一助となるべく開催。約270人がオンラインで参加した。

冒頭、札幌建設業協会の鈴木真事務局長は、「生産人口が縮減する中で、BIM/CIM活用をはじめとする建設分野のDX推進は欠かせない。健全な建設

識や技能の向上につながり、業務効率化・生産性向上へと発展していくという一連の流れが生まれることで、建設業が非常に魅力的な産業になり得ると展望した。

このあと、モデル事務所として倶知安余市道路の整備を進める小樽開建と、札幌開建の道路・河川・農

業・空港それぞれの実際の工事における取組および得られた効果と課題を紹介。産学官CIM・GIS研究会の担当者が、さらなる普及に向けて設計・施工の各立場で課題を抽出していく必要性があることも説明した。

BIM/CIM導入セミナー

建設業の変革を示唆

札幌建設協

札幌建設業協会と札幌商工会議所、産学官CIM・GIS研究会は19日、建設DXやBIM/CIMの導入セミナーをオンライン形式で開いた。国土交通省のBIM/CIM推進委員会が委員長を務める矢吹信喜大

阪大学大学院工学研究科教授は、2023年度からの原則適用を機にBIM/CIMが普及することで、仕事のプロセスが正のサイクルに変わり建設産業や発注・契約を大

きく変革する可能性を示した。道内の建設業者ら約270人が受講。国交省が23年度から小規模を除く全ての土木系公共工事でBIM/CIMが原則適用する方針を示したことにより、建設関係各社で対応が求められることから最新の動向や活用事例を学んだ。

矢吹教授はBIM/CIMの原則適用を機にBIM/CIMが普及することで、仕事のプロセスが正のサイクルに変わり建設産業や発注・契約を大



この後、札幌開建の江藤泰山技術企画課技術管理専門官は、北海道開発局のi-Constructionモデル事務所である小樽開建所管の倶知安余市道路での取り組みを説明。産学官CIM・GIS研究会の河村巧副幹事長は原則適用に向け、課題解決ワーキンググループを立ち上げる方針を示した。